■まちづくり・地域づくりで最大の問題となること

□「まちづくりの実践の場で重要になること」

「円滑なコミュニケーション」→「上手な話合い」※私がこの仕事をしている意味

■地域の話合いは難しい

■地域にはとてもたくさんの人が住んでいる
・意見がそれぞれ違うのはあたりまえですよね
■地域にはとてもたくさんの人間関係がある
・利害関係が複雑にからまってるかも知れないです

どんな決め方をしても不満が残るのはあたりまえ

■さて、皆さんの地域で話合いはうまくできていますか？

→「皆で決めたことなんだから守ろう」って時の「皆で決める」ってどういうこと？

■参加型社会の到来

□参加型社会とは？

上の立場の人が命令したり…
優位な意見の人が誰かを説得したり…
そんなふうにモノゴトが決まっていく社会ではなく

ひとりひとりが主体的に関わり、相互に連係し、フラットな関係の中で合意していくことが求められる

□参加型社会では説得より納得

誰かが誰かを説得するのではなく皆で問題を共有して、きちんと話し合う
→そういう関係づくりが大切
「内容」を伝える（理解させる）だけでなく**「共感」や「納得」を生む必要**がある

□参加型社会において大切な「納得」とは

→　まちづくりにおいて大切なこと　**納得のプロセス【理解＜ 納得＜ 共感】**

□参加型社会において大切な「納得」とは

皆で決めるというのは、できるだけ多くの「納得」を引き出す作業なのかもしれません

■より有効な話合いの技術としての「ワークショップ」

□「皆の納得を引き出す技術」が重要になる→これがワークショップ

■なぜ話合いが難しいのか？

・話す人が決まっている
・何のための話合いかわからない
・議論が深まらない
・話がかみ合わない
・個人的な感情で物事を決める人がいる
・結論があいまい

□より有効な話合いの技術としての「ワークショップ」

旗揚げアンケートの実験

□例えば「聞いても皆、ちゃんと意見を言ってくれないから…」ってよく聞きます

→　それはもしかしたら、聞き方が悪いのかも知れませんよ

→　旗上げ実験で、旗のある時とない時の意見の出方の違いを体験して下さい。

■旗上げアンケートがなぜ有効か

・選択肢が示されているので答えやすい
・ゲーム的に参加できるので、意見を言う抵抗が少ない
・他の人の意見を見ずに上げるので、誰かの意見に流されることがない
・その他の選択肢を設けることで、自由な意見を誘発することが可能
・少数意見も決して黙殺しないやりかたができる

■ワークショップとは

①　グループワークをベースにした、
②　参加・体験・創造型の手法で、
③　課題解決や合意形成などを、行う「場」

□キーワードは「グループ」「参加」「体験」「場」
□よりよい話合いの技術の一つ。納得を引き出すための道具
□ワークショップを運営する技術がファシリテーション

■レコーディングについて

■レコーディング（ファシリテーション・グラフィック）がなぜ有効か

①議論の経過が、皆の前で記録に残る
　→その場で議事録チェックが可能
②ケータイで写真を取ればメモがいらない
　→議論の間、集中して議論ができる
③参加してない人や、遅刻した人も分かる
　→議事録を渡されても、なかなか読めないし
④目の前で頭の整理ができる
　→議論の流れがよく分かるし、脱線しない
⑤話合いの振り返りが簡単
　→最後に復習することで、内容がより頭に残る

テーブルワーク「よい会議・わるい会議について考えよう」

□ポストイットと黒いペンが皆さんの道具です。

ポストイットは画期的な道具です。１人が３つ意見・アイデアを書くと、
あっという間に「３つ×人数分」の意見が集まるという素晴らしい手法
ポストイットは、まちづくりワークショップでは大変よく使います

◎ポストイット利用の「鉄のオキテ」

①１つのポストイットには１つの意見を
（あとで意見を分類するときに困ります）
②配られた太めのペンで書く
（鉛筆はあとで見にくい・写真撮れない）
③裏表を間違えない
（貼れないとダメです）
④上下を間違えない
（逆さまだとめくれちゃう）

■話合いをします

□今日は、体験することが目的なので、あまり議論を白熱させてはいけません。
→ ふだんの話し合いの時はある程度白熱するのはすごくいいことですが・・・

■テーマ「よい会議・よい話合いとはどんなものか
悪い会議・悪い話合いとはどんなものか」

□どんなことでもいいので、１人あたり１つずつは意見を出しましょう
・隣の人と相談しても全然構いません。がんばって！

□意見が出たら、テーブル内でお互いに発表しあってみてください
・今日は時間がないので、簡潔にお願いします。

■作業「みんなの意見をグルーピングして、グループにタイトルをつけます」
■作業「グループごとに、グループ全体が考える「よい会議・よい話合い」発表」
■各班の発表をします

■レコーディング（ファシリテーション・グラフィック）がなぜ有効か

①議論の経過が、皆の前で記録に残る
→その場で議事録チェックが可能
②ケータイで写真を取ればメモがいらない
→議論の間、集中して議論ができる
③参加してない人や、遅刻した人も分かる
→議事録を渡されても、なかなか読めないし
④目の前で頭の整理ができる
→議論の流れがよく分かるし、脱線しない
⑤話合いの振り返りが簡単
→最後に復習することで、内容がより頭に残る

■浅見の使っているワークショップ的技法

①旗上げワークショップ　②レコーディング
③意見のグルーピング　④課題のグラフ化
⑤課題解決シート作成　⑥シール投票
⑥マイクロワークショップ

他にも手法はたくさんあります。この講座で少しずつ紹介します。

■まちづくりワークショップとは

さまざまな立場、意見の人が参加し、
何らかの**共同作業**を通じて、
まちづくりの**課題や方向性**について、
公平かつ創造的な議論を
おこなう**「場」**

であることが少しは理解していただけましたか？

■ワークショップの特徴

①始めから決まった答えなどない
②ワークショップに先生はいない
③「お客さん」でいることはできない
④頭が動き、心も体も動く
⑤交流と笑いがある

ワークショップとは、楽しく話合いをするための技術でもある

①ちゃんと聞いて
②ちゃんと話して
③相互理解を深める

そういうことができる場をつくる。それがワークショップの効能です。

■来月の予定

来月は「ワークショップ」を運営する技術「ファシリテーション」について学びます。